（第72号）　隔月刊（偶数月20日発行）

県トラ新聞

2021年4月号

社長雑感　心を積極的に

新型コロナウイルスは、決定的な対応策のないまま第四波を迎えようとしている。今できる対策は感染予防の実行のみだ。一方欧米ではワクチンが功を奏して来ており、日本でもその接種が期待されるところだが、数量の確保が遅れておりまだまだ時間がかかりそうだ。強いリーダーのいない日本はいまのところは、他国の成功事例に学ぶしか無く、先の見えない不安な日々はまだしばらく続きそうだ。

不安というのは、人間の考え方や行動をも否定的な方向に導いて行く。コロナが人々の心にマイナスなインパクトを与えていることは事実であり、言いようのない閉塞感が漂っている。しかし、コロナで変化する事の全てが否定的なものではない。テレワークやデジタルトランスフォーメーション（DX）の浸透で、旧来の生産性の低い仕事を見直すチャンスであり、働き方改革につながるだろう。これまでの価値観を見直すこれとないチャンスである。

時間はかかるかもしれないが、いつかは新型コロナにも治療薬が開発され ただの風邪」になる日が来る。その時人々の不安も同時に解消されるのであろうか？答えはノーである。自分の心のあり方が消極的である限り、また新たな材料で不安や心配事が発生する。自分の将来の事、仕事の事、友人との事、家族の事等、心配ごとの種は限りなくある。

なぜ人は、不安を抱き続けるのであろうか。それは、心の中に消極的な思考パターンが刷り込まれているからだろう。自分の周りで起こることに対して、反射的に否定的に考える習慣がついているために、不安が心の中に生じる事になる。そしてそれをごく当たり前の事と思っているからである。「これを心配せずにいられようか？」と。

コロナ禍をチャンスに成長する人は、普通の人たちが不安や不満をため込む時に、この状況を面白がることのできる、積極的な心の持ち主だろう。そんな人はどんな困難な状況でも、それをプラスに変えて行く心のパターンが出来ている。コロナの終焉が心を穏やかに変えてくれるのではなく、自分の考え方、それも 積極的な心」を持つことによって、コロナにも他の心配事にも動じなくなれるのである。難しいこの時期を心の力でプラスに変えて行きましょう。

吉澤比佐志

祝 入社式 & ★リレー方式★ 県トラ社員紹介

四月一日に入社式を行いました。今年は女性1名（浅野さん）が入社されました。四月中はローテーション研修を行っており、各部署の業務を体験してもらっています。みなさん早く顔と名前を覚え、声をかけてあげてください♪

NEW FACE

今回は本年度新入社員の浅野真里奈さんと黒田 充弥さん、村勇さん、吉田宗利さん、口岩航さん、道下真伍さんの紹介です。

Q1 趣味は？

浅野　体を動かす・音楽鑑賞
黒田　映画鑑賞
村　釣り
吉田　特になし
口岩　料理・ゲーム
道下　酒・サッカー観戦

Q2 休日の過ごし方は？

浅野　友達・家族とショッピング
黒田　インドア・まったり
村　釣り
吉田　パチンコ
口岩　家族と遊ぶ
道下　体を動かす・ゲーム

Q3 一言お願いします

浅野　笑顔を忘れず頑張ります
黒田　事故無しで頑張ります
村　頑張ります
吉田　アナログですが宜しく
口岩　会社と一緒に成長します
道下　そろそろBBQしたいです

道下 真伍さん

口岩 航さん

吉田 宗利さん

村 勇さん

黒田 充弥さん

浅野 真里奈さん

第72号
発行者
富山県トラック㈱
富山市水橋沖188
TEL 076(479)6311
FAX076(479)6300

今第72号は
野口・蛇見が
担当しました

次回担当は
柴山さん
竹内さん
よろしく
お願いします

祝 結婚式を挙げました

私事ですが、三月に結婚式を挙げました。

昨年の五月を予定していましたが、コロナウイルスが流行り始めたため延期していました。それから一年近く経ってもコロナウイルスは収まらず、再延期や中止も迷いましたが、式場にいろいろな対策をしてもらった上で無事行うことができました。

招待した多くの人たちとは一年近く直接会えていなかったので、扉が開いてみんながいるのが見えた時は心が震えました！

不安もあったはずなのに来てくれて、楽しかった、良かったと言ってくれた優しい周りの方たちに感謝の気持ちでいっぱいです。私も楽しむことができました。

まだまだ何が良くて何が悪いかも曖昧な時です。大変だったけどこの時に結婚式ができて良かったよね、と言える日が早くきますように。

（蛇見）

2021 上期キックオフ開催

新年度にあたり、二〇二一年の上期キックオフを開催しました。吉澤社長より 空員経営」が今年度のキーワードとして発表されました。新型コロナウイルスの再拡大下でのスタートとなりましたが、社員一丸となって、業務に取り組んで行きたいと思います。

野口 NOGUCHI'S COLUMN　新年度　気持ちを新たに」

こんにちは。運輸部野口です。暖かな日が少しずつ増え始めてきていますね。皆さんいがいがお過ごしでしょうか。

昨年度は新型コロナウイルスによって生活が一変した一年でしたね。首都圏等都市部の医療機関は逼迫し、感染を防ぐための手洗いうがい、マスクの着用が必須となり、県を跨ぐ移動も自粛しなくてはならなくなりました。首都圏の企業では時差出勤やインターネットを用いたリモートが主流となり、生活だけでなく働き方さえも、大きく変化してきています。この富山県トラックも例外ではなく、リモートワークやアクリル板で個人のブースが仕切られるようになり、今までのように歓送迎会等の催し物もできなくなりました。（一個人の私生活においても東京の病院で看護師として働く娘が帰って来られなくなり、会えなくなってしまったということや、家族で遠出することも、実家に帰ることもできなくなり、困惑したことも多くありました）皆さんもこの一年、今までと違う生活様式に不安やストレスを抱えながら過ごされたこととお察しいたします。

さてそのような中ではありますが、今年も四月を迎え、新たな年度となりました。それに伴い、今年度も素敵な方々がこの富山県トラックにスタッフとして仲間入りされました。私もこの会社に新しい風を吹かせて下さる、新たなスタッフの方々と働くことができることを楽しみにしています。これまでの生活様式であれば、入社されてからの歓迎会で、新入社員の方々含め、スタッフの皆さんとお食事しながらお話をして親睦を深めることができました。若い方にとっては違うかもしれませんが、私にとって歓送迎会というものは、会食とそこで行われる会話によって一緒に働く方々の人となりを知ることができるものであり、人と人の結びつきを確かにしてくれるものでした。そして、新しいスタッフの方へ自分が歓迎の気持ち表するためのきっかけとなる行事でもありました。しかし、残念なことに今年は歓迎会が出来ません。その上お互いにマスクをしているので、表情から感情を読み取ることも難しくなっています。この県トラ新聞を読んでくださっている方の中にも、交流の場が減ってしまって、残念に思われる方もいらっしゃることでしょう。

しかし、よく考えてみれば、人と人との結び付き、つまり人間関係の構築は歓迎会が全てではありません。人間関係は日々の関わりの積み重ねの中で構築されていくものであり、歓迎会というのは、そのきっかけの一つにすぎません。ではそのきっかけがなければどうすればよいのか。それはきっと、相手とのコミュニケーションの積み重ねを大切にしていくことではないでしょうか。例えば毎日当たり前のように行っている挨拶の際に、少し声のトーンを高くして明るくしてみたり頼み事をする時には丁寧な言葉を用いてみたりすること。もちろん忙しい時には余裕がなくて素っ気ない態度になりがちですが、そのような時こそ一呼吸おいて目を見て返事するだけでも大きく違うと思います。そして何より大事なのは、相手を仕事のパートナーとして思いやり、尊敬する心を持つことではないでしょうか。

コロナ禍では歓迎会もできなくなる上、マスクでお互いの細やかな表情も見えません。しかしマスクで表情が見えなくても 声のトーン一つ、言葉一つ、態度一つで相手に自分の気持ちを伝えることは出来ます。新しい生活様式に、新しい働き方。慣れることは簡単ではありませんが、相手への思いやりの心、尊敬の気持ちを持って接する事ができれば、少しずつ良好な人間関係を構築することができるのではないでしょうか。簡単ではありませんが、私も皆さんとより良い環境で働けるように努力していこうと思います。

新しい風が吹きこむ今年度、気持ちを新たに頑張りましょう。